けんこうガイド

マザーリーフ事業（不妊治療費助成事業）

新冠町では、「赤ちゃんが欲しい」と不妊治療にのぞむご夫婦に対し、治療費の助成を行っています。

不妊治療のうち、特定不妊治療（体外受精や顕微授精）一般不妊治療（人工授精）は健康保険の適用外です。

そのため、治療をされている半数以上の方が治療費に総額１００万円以上をかけているとも言われており、経済的負担を理由に治療をちゅうちょされる方も少なくありません。

また、治療を受けてもすぐに成果が得られないことも多いため、治療が長期化するほど身体的・精神的・経済的な負担が大きくなるという側面もあります。そこで、町では治療にのぞむご夫婦の負担が少しでも軽くなるようにと、治療費の一部を助成するマザーリーフ事業を行っています。

新冠町マザーリーフ事業では、特定不妊治療について、道が行う特定不妊治療費助成に上乗せする形で、１回15万円を上限に、総額１５０万円まで助成します。また、道の助成制度に含まれていない一般不妊治療（人工授精）についても、年度あたり５万円を上限に、通算２年まで助成します。

対象となるのは、①夫婦ともに町内在住で町税などを滞納していないこと、②夫婦のいずれか一方が日本国籍を有し婚姻していること、③道の指定医療機関で不妊治療を受けた者、という条件に当てはまるご夫婦です。

不妊治療費への助成は、近隣市町村でも開始されていますが、助成対象や金額などはさまざまです。新冠町では、所得制限・年齢制限を設けず、人工授精も助成対象に含めるなど、利用しやすさを考慮しています。

申請は不妊治療の終了した日の属する年度内に行ってください。質問・相談があれば、気軽に役場保健師まで連絡ください。

【申請に必要な書類など】
①医療機関発行の不妊治療に要した費用に係る領収書（写しでも可）
②北海道から発行されている交付決定通知書
③新冠町不妊治療費助成金交付申請書（窓口・町ホームページに掲載）
④印鑑
⑤通帳（振込先の口座番号が確認できるもの）
⑥不妊治療医療機関受診等証明書（窓口・町ホームページに掲載）
※北海道の「特定不妊治療費用助成事業」の対象とならない場合は、⑥が必要となります。

●問い合わせ先
保健福祉課保健福祉グループ健康推進係
☎０１４６・４７・２１１３

健康カレンダー

月日	時間	事業名	場所
8月 3日（水）	10時00分～12時00分	お喜楽☆おたっしゃ塾	保健センター
5日（金）	18時30分～20時00分	からだリセット講座	保健センター
9日（火）	受付13時00分～	BCG予防接種	保健センター
10日（水）	10時00分～12時00分	お喜楽☆おたっしゃ塾	保健センター
19日（金）	受付13時00分～	フッ素塗布	保健センター
30日（火）	受付9時45分～	4・7・12ヶ月児健康診査	保健センター
	受付13時00分～	1歳6カ月・3歳児健康診査	
9月 5日（金）	13時30分～15時30分	こころの健康相談	※要予約（9月1日まで）
8月 27日（水）	13時00分～16時00分	女性の健康相談	※要予約（8月26日まで）

静内保健所からのお知らせ ☎０１４６・４２・０２５１

月日	時間	事業名	場所
8月 20日（水）	10時00分～12時00分	お喜楽☆おたっしゃ塾	保健センター
	18時30分～20時00分	からだリセット講座	
21日（木）	受付13時00分～	フッ素塗布	保健センター
26日（火）	受付9時45分～	4・7・12ヶ月児健康診査	保健センター
	受付13時00分～	1歳6カ月・3歳児健康診査	
27日（水）	10時00分～12時00分	お喜楽☆おたっしゃ塾	保健センター
29日（金）	18時30分～20時00分	からだリセット講座	保健センター

めざせ！ N 新冠 K 健康 P プロジェクト

＊救急医療週間について＊

毎年９月９日を含む１週間を「救急医療週間」として救急医療に関する行事を実施しています。いざというときにあわてないために、今の時期に知っておきたい「熱中症」の症状と応急手当について紹介します。

熱中症

熱中症とは、暑さや湿度の高さなどによって汗をかき、身体から水分や塩分が失われ、「体温調整機能」が上手くできなくなることで起こる様々な身体の不調です。

熱中症は年齢を問わず起こり、特に幼児や65歳以上の方に起こりやすくなります。軽症のうちに手当てすれば間もなく回復します。

このような症状があれば熱中症かも！

重症度Ⅰ…めまい・立ちくらみ・筋肉痛・汗が止まらない
重症度Ⅱ…頭痛・身体のだるさ・吐き気・おう吐
重症度Ⅲ…意識障害・けいれん・高体温・まっすぐ歩けない

熱中症のサインに注意し、日頃から水分・塩分補給をこころがけ、徐々に身体を暑さに慣らしておきましょう。

熱中症の応急手当

①涼しい場所で安静にする。
②頭を高くして寝かせ、衣服のボタンやベルトなどをゆるめる。
③後頭部・首筋・脇の下・足の付け根を氷のうなどでゆっくり冷やす。
④意識がはっきりしている場合に限り、水分補給を行う。
※急に冷たい飲み物を飲むと、吐いてしまうことがあるため、ぬるめのスポーツドリンクやお茶、経口補水液などにしましょう。
※「呼びかけに対する反応がおかしい」、または「呼びかけに応えない」という意識障害を伴うような場合はすぐに医療機関への搬送が必要です。

一家にひとつは救急箱を！

救急箱はいざというときにすぐに使えるよう取り出しやすい所に保管しましょう。

半年に１回は中身をみて、使用期限などを確認しておきましょう。

救急箱にあると良いもの

①包帯　②傷薬（塗り薬）
③ガーゼ　④総合感冒薬
⑤かゆみ止め　⑥体温計
⑦胃腸薬・整腸剤
⑧はさみ　⑨毛抜き
⑩消毒薬　⑪ばんそうこう

●問い合わせ先
保健福祉課保健福祉グループ健康推進係
☎０１４６・４７・２１１３

介護ワンポイントアドバイス⑭⑧

元気なうちから介護予防⑤

「お出かけ編」

《外出を楽しみましょう》

買い物や、通院、ゲートボールに行くなど、週に何回外出していますか？

１週間で１回も外出していない場合は「閉じこもり」状態です。閉じこもりのきっかけには、歩くのがおっくう、出かけるような趣味がないなどがあります。

閉じこもりの状態が続くと筋力が低下して歩くことが困難になることがあります。また、自宅での単調な生活では脳への刺激が少なく認知症になる可能性が高くなります。

外に出る楽しみや喜びを見つけ、閉じこもりを予防しましょう。

《お出かけポイント》

1　地域の活動や催しに参加しましょう。
2　経験や知識を活かしボランティア活動をしましょう。
3　空いた時間に散歩をしましょう。
4　趣味のグループ活動などで人との交流をしましょう
5　まとめ買いをせず、こまめに買い物に行きましょう。

介護のことは、お気軽にご相談ください。
介護支援係　仙波　明子

●保健福祉課保健福祉グループ介護支援係
0146・47・2113（直通）